

読売新聞読書教養講座を開催 ～中島京子さん、北村薫さんが講演～

2018年10月2日、直木賞作家の中島京子さんを講師に迎え、読書教養講座を開催しました。中島さんは、「小説は寛容な『器』」というテーマで講演され、会場となった西南学院百年館（松緑館）には多くの方が来場しました。講演後は、学生とのトークセッションを行い、活発な意見交換が行われました。中島さんは講演の中で、「主人公の気持ちがわかるのも小説だけれども、わからないのも小説。小説というのはかくも寛容な『器』なのです」と語りました。その後、学生4人の質問に応じる形で、山田洋次監督によって映画化された「小さいうち」の創作の舞台裏も明かしてくださいました。

また、11月28日、同じく直木賞作家の北村薫さんを迎え「読むこ

と、書くこと」をテーマに、本学法学部の田村元彦准教授と対談を行いました。北村さん是对談の中で、「読むことは、単に活字を読むことではありません。さまざまな経験を重ねたり、年を経たりしなければ見えてこないものがあるのです」と語りました。また、学生とのトークセッションでは、物事を確かに読み取るために、見聞を広めることの大切さを説きました。

読書教養講座は、読売新聞社活字文化推進会議主催の講座で、今回で14年目の開催となりました。講演を聴きながらメモを取る参加者の姿も見受けられ、読書に対する意識の高さがうかがえました。



中島さんの講演の様子(写真提供:読売新聞社)



北村さんを囲んでのトークセッション(写真提供:読売新聞社)

読書教養講座 in Tokyo & 西南学院東京オフィス開設5周年記念講演会を開催

井上芳雄氏(西南学院高等学校・舞鶴幼稚園卒)、尾崎里紗氏(経済学部卒)が登壇

2018年11月4日、西南学院東京オフィスが入るサピアタワーにおいて、読書教養講座 in Tokyo & 西南学院東京オフィス開設5周年記念講演会を開催しました。日本のミュージカル界を代表する井上芳雄氏(西南学院高等学校・舞鶴幼稚園卒)を講師にお招きし、「言葉に命を吹き込む仕事」というテーマでご講演いただきました。聞き手は、日本テレビアナウンサーの尾崎里紗氏(経済学部卒)で、約2,300名の応募の中から抽選で選ばれた約400名が参加しました。

井上氏は、福岡で過ごした青春時代を振り返りながら、ミュージカル俳優になったきっかけや、読書の楽しさ、言葉の大切さを話されました。演じる役の関連本を必ず読むという井上氏は、「本を通してその人の人生を知ること、役作りをするうえでも多くのことを学べます」と語り、大切にしている一冊として、ユダヤ人収容所をテーマにした『夜と霧』(V・フランクル著)の一節を朗読されました。最後に、「日々生きていくことは大変です。一人で生きていくこ

とも難しいです。そんな時、生きるヒントや背中を押してくれるものが本の中にはあります」と会場にいる参加者にメッセージをおくりました。ユーモアを織り交ぜながらの講演に、参加者は熱心に聴き入っていました。



トークショーで語る井上さん、聞き役の尾崎さん(写真提供:読売新聞社)